



＜速報＞第55回ギャラクシー賞入賞作品決定

55周年記念賞、個人賞、特別賞、DJパーソナリティ賞決定

平素より当会にはご理解、ご支援を賜り、ありがたく御礼申し上げます。

テレビ、ラジオの番組、関係者に贈る賞として55年の歴史を誇る「ギャラクシー賞」の今年度入賞作品が決定しました。本日4月27日、発表いたします。

テレビ部門、ラジオ部門、CM部門、報道活動部門の入賞作品は別紙一覧のとおりです。（各部門とも、この入賞作品の中から、大賞、優秀賞、選奨が選ばれ、5月31日の贈賞式で発表いたします。）

テレビ部門特別賞・個人賞、ラジオ部門DJパーソナリティ賞は以下のとおり確定いたしました。今年度は55周年の節目を記念して、ギャラクシー賞55周年記念賞をお一人にお贈りします。ぜひ記事にお取り上げいただくようお願いいたします。

テレビ、ラジオ、CM、報道活動各部門入賞作品＝別紙一覧参照

＜ギャラクシー賞55周年記念賞＞ 倉本 聰

＜テレビ部門 特別賞＞ バカリズム 「架空OL日記」（読売テレビ）の原作・脚本・主演

＜テレビ部門 個人賞＞ 高橋一生 大河ドラマ「おんな城主 直虎」（NHK）ほかの演技

＜ラジオ部門 DJパーソナリティ賞＞ 村山仁志 長崎放送パーソナリティ

＜贈賞式日程＞

日時 2018年5月31日（木曜日）贈賞式15:00～17:15 / 司会：久米 宏

会場 セルリアンタワー東急ホテル ボールルーム（東京・渋谷）

5月17日（木）16:00に、第2次発表を行い、志賀信夫賞、フロンティア賞、マイベストTV賞グランプリを発表します。

5月31日（木）贈賞式で、テレビ部門、ラジオ部門、CM部門、報道活動部門の大賞、優秀賞、選奨が確定し、発表されます。

ギャラクシー賞55周年記念賞

倉本 聡

テレビ部門

テレビ東京開局記念日 ドラマ特別企画「破獄」

テレビ東京 ドリマックス・テレビジョン

メ〜テレドキュメント「シネマ狂想曲～名古屋映画館革命～」

名古屋テレビ放送

BS1スペシャル「“フェイクニュース”を阻止せよ～真実をめぐる攻防戦～」

日本放送協会 NHKエンタープライズ パオネットワーク

関ジャニ∞クロニクル「TOGAKI HOUSE」

フジテレビジョン

映像'17「教育と愛国～教科書でいま何が起きているのか」

毎日放送

NHKスペシャル「戦慄の記録 インパール」

日本放送協会

NHKスペシャル「スクープドキュメント 沖縄と核」

日本放送協会

BS1スペシャル「サハリン残留 家族の歲月」

日本放送協会 NHKエンタープライズ テムジン

ヤメ暴～漂流する暴力団離脱者たち～

OBCテレビ

お宝レコード発掘の旅 あなたの思い出の曲かけさせてください

BS朝日 BEGIN

ETV特集「長すぎた入院 精神医療・知られざる実態」

日本放送協会

テレメンタリー 2018「東京クルド／TOKYO KURDS」

テレビ朝日

金曜ドラマ「アンナチュラル」

TBSテレビ ドリマックス・テレビジョン

100分deメディア論

日本放送協会 NHKエデュケーショナル テレコムスタッフ

特別賞

バカリズム

「架空OL日記」(読売テレビ)の原作・脚本・主演

個人賞

高橋一生

大河ドラマ「おんな城主 直虎」(NHK)「民衆の敵」(フジテレビ)連続テレビ小説「わろてんか」(NHK)の演技

報道活動部門

シリーズ企画「震災・防災・減災」

サンテレビジョン

化学物質過敏症～理解されない病に苦しむ患者たちを伝える6年間の報道～

テレビ金沢

伝える、つなぐ～名張毒ぶどう酒事件報道の40年～

東海テレビ放送

かえる先生のいきもの交遊録

長崎ケーブルメディア

変わる自衛隊 地方から伝えた一連の報道

名古屋テレビ放送

相模原障害者施設殺傷事件後の一連の報道活動

日本放送協会

●テレビ部門は上記ノミネート14本から、大賞1本、優秀賞3本、選奨10本が選出されます。●ラジオ部門は上記ノミネート8本から、大賞1本、優秀賞3本、選奨4本が選出されます。●CM部門は上記ノミネート13本から、大賞1本、優秀賞3本、選奨9本が選出されます。●報道活動部門は上記ノミネート6本から、大賞1本、優秀賞2本、選奨3本が選出されます。●最終選考の結果は、5月31日(木)開催「第55回ギャラクシー賞贈賞式」で発表、表彰されます。●テレビ、ラジオのノミネートは放送日順、CMは広告主企業名五十音順、報道活動は申込社(者)名五十音順に記載。●詳しい結果は6月6日(水)発売の「GALAXY」2018年7月号に記載いたしますので、ご覧ください。

ラジオ部門

最期への覚悟

CBCラジオ

SBSラジオギャラリー「幸せのカタチ～本当の親子 本物の親子～」

静岡放送

わが人生、島唄にあり～俊造あにいの遺言～

エフエム鹿児島

J-WAVE SELECTION Denka MY JAZZ, MY SOUND

J-WAVE

新里カオリのうららか日曜日～被爆72年「戦後」はいつまで続くのか～

中国放送

旧盆特別番組「How to うちな一塚」

エフエム沖縄

ラジオと童謡と～「サっちゃん」の阪田寛夫が残したもの

朝日放送ラジオ

エフエム徳島・TOKYO FM共同制作 鳴門第九アジア初演100周年記念企画

ドキュメンタリードラマ「歓喜の歌が響く街～第九の里・徳島県鳴門市の奇跡」

エフエム東京 エフエム徳島

DJパーソナリティ賞

村山仁志

「あざから!」(長崎放送)パーソナリティ

CM部門

テレビCM

岩手日報社 岩手日報「最後だとわかっていたら篇」

岩手日報社 博報堂 博報堂プロダクツ

NTTドコモ 企業 docomo 25周年ムービー「25年後の夏篇」

NTTドコモ NTTアド 博報堂 catch ENOAD AOI Pro.

サントリーホールディングス CRAFT BOSS シリーズ 新しい

風「いいコンビ」「誰もいない」「誰と組む」

サントリーホールディングス シンガタ ワンスカイ 電通 ギークビクチュアズ

資生堂ジャパン 表情プロジェクト シリーズ「表情プロジェクト」

資生堂ジャパン 電通 電通クリエイティブX

住友生命保険 1UP／わんぱく／1UP WOMAN シリーズ「定食で1UP 店主の

証言篇」「少年も1UP 少年の証言篇」「妹が1UP 本人の証言篇」「秋だから1UP 本人

の証言篇」「里帰りで1UP いとこの証言篇」「里帰りで妹も1UP いとこたちの証言篇」

住友生命保険 TUGBOAT 博報堂 東北新社

東海テレビ放送 公共キャンペーン・スポット「この性を生きる。」

東海テレビ放送 電通中部支社 ソーダコミュニケーションズ Zaxx

日清食品ホールディングス カップヌードル シリーズ

HUNGRY DAYS「予告篇」「魔女の宅急便篇」

日清食品ホールディングス 電通 ギークビクチュアズ

日本中央競馬会 GI告知CM 天皇賞(春)／日本ダービー／宝塚記念／企業／スプリンターズステークス シリーズ「次から次へと」

「おまつり」「てっきり」「十場十色(夏競馬)」「自分ならどうする？」

日本中央競馬会 TUGBOAT 博報堂 スプーン

パイロットコーポレーション フリクション シリーズ「居酒屋篇」「健康診断篇」「社長篇」

パイロットコーポレーション 電通 TTRフェイス

ユーキャン 企業「One Month パパと息子の1ヶ月のふたり暮らし」

ユーキャン 博報堂 博報堂プロダクツ

ラジオCM

味の素 企業「あたしん家のお母さん(母の日限定CM)」

味の素 電通 大日

キリンビール 一番搾り 大阪に乾杯「なにわ篇」

キリンビール 朝日放送ラジオ ビッグフェイス BGMサービス

大日本除虫菊 おでかけカトリス／キンチョウの蚊がいなくなるスプレー

／虫よけプレシャワー／虫よけキンチョール／キンチョール 金

鳥少年2017シリーズ「その1」「その2」「その3」「その4」「その5」

大日本除虫菊 電通関西支社 ヒッツコーポレーション



第55回ギャラクシー賞 / NPO放送批評懇談会 ASSOCIATION OF BROADCAST CRITICS / プレスリリース PRESS RELEASE 2018/4/27

ギャラクシー賞 55周年記念賞

倉本 聰

<選評>

脚本家として「6羽のかもめ」「前略おふくろ様」「北の国から」「風のガーデン」など、長年にわたりテレビドラマ史をいろどる数々の名作を残した功績をたたえます。

詳細な履歴書作りから生まれる魅力的なキャラクター造形や、人間誰しも持っている狡さや弱さ、滑稽さといった人間くささがにじむ台詞など、氏の個性が色濃く投影されたドラマは多くの人の記憶に残っています。なかでも自身が移住した北海道・富良野を舞台にした「北の国から」では、21年という長期間にわたって登場人物たちを成長させていくというドラマ作りに挑戦。その時間を視聴者も共有することで、受け手の人生にとっても分かち難い存在として愛される、まさに国民的ドラマとなりました。

1984年から2010年までの26年にわたり、若手の役者と脚本家を育成する「富良野塾」を主宰。後進の育成にも力を注いできました。

さらに2017年には「シルバータイム」と銘打って、平日午後に高齢者層が楽しめる新たな帯ドラマ枠を自ら開拓。その第一作となった「やすらぎの郷」では、テレビ業界を支えた人々だけが入居できるという架空の老人ホームを舞台に、昭和を代表する俳優たちが競演。時折、テレビ業界への批判も盛り込みながら、虚実ないまぜの物語を紡いでみせました。

80歳を越えてなおチャレンジ精神を失わず、テレビドラマの持つ力を信じ、その可能性を広げつづける姿勢に敬意を表し、ここに謹んでギャラクシー賞 55周年記念賞を贈ります。

<倉本聰氏プロフィール>

くらもと・そう 1934年生まれ。東京都出身。東京大学文学部美学科卒業後、59年にニッポン放送入社。ディレクター、プロデューサーとして勤務するかたわら、脚本家として活動を始める。63年に同社退社後、フリーの脚本家として独立。77年に北海道・富良野へ移住、84年から役者やシナリオライターを養成する私塾「富良野塾」を主宰。代表作に「6羽のかもめ」「北の国から」「前略おふくろ様」「昨日、悲別で」「ライスカレー」「優しい時間」「風のガーデン」など多数。2006年からは「NPO 法人 C・C・C 富良野自然塾」も主宰し、閉鎖されたゴルフ場に植樹をし、元の森に返す自然返還事業と、そのフィールドを使った教育プログラムにも力を入れている。

■参考／過去の周年賞、記念賞の受賞者(賞名、年度)

牛山純一さん (小谷正一記念賞／30周年、1993年)

田原総一郎さん (城戸又一賞／35周年、1998年)

黒柳徹子さん (岩田糸子賞／40周年、2003年)

永 六輔さん (45周年記念賞、2008年)

山田太一さん (50周年記念賞、2013年)

久米 宏さん (50周年記念賞、2013年)



ギャラクシー賞の概要

◆歴史および概要◆

1963年、放送草創期のこの時期に、テレビとラジオの可能性、影響力に着目し、その発展には必ず“批評”の力が必要であると考えた評論家、研究者、ジャーナリスト、作家らの有志によって創設された放送批評懇談会。ギャラクシー賞は、志ある番組を掘り起こし、制作者たちの番組作りへの情熱に光を当てて顕彰することで現場を鼓舞し、番組の向上・発展を促すことを目的に誕生した。民間の自主的意思を基盤として創設された放送賞の第一号である。表彰は1年単位。

「ギャラクシー」とは、天の川、銀河という訳のほか、佳人・才子の華やかな群れという意味を持つ。放送界にきらめく才能を表すのにふさわしいものとして、放送批評懇談会設立の核となった渋谷秀雄、内村直也、梅田晴夫そして初代のトロフィーをデザインしたガラス作家・岩田糸子らによって賞の名に選ばれた。ギャラクシー賞は第50回（2013年）を記念してトロフィーを一新。松永真デザインの「バードマン」が新しい賞のシンボルとなった。

◆賞の特徴◆

ギャラクシー賞設立時には、すでにいくつかの放送賞が存在したが、その多くは「コンクール用に盛装を凝らしたものを対象にした記念行事」（故・白井隆二）だった。白井らは、テレビやラジオが日常に根ざした媒体であることを強く意識し、年間を通じてテレビを視聴しラジオを聴いて番組を批評することを賞の大前提に掲げた。その志は現在まで貫かれ、放送批評懇談会正会員の自主的な視聴活動が賞の土台となっている。

テレビ部門では、審査を担当する選奨委員により月評会（毎月）が開催され、月間賞が選出されている。ラジオ部門も月例会を持ち番組を論じ合う。これらの内容は毎月、月刊誌「GALAC／ぎやらく」に掲載される。こうした活動により、“放送の現在に向き合う賞”として独自の地歩を固めている。

◆審査と表彰◆

時代性に優れ、ジャーナリスティックな感覚を持ちえていること、かつ作品として普遍的な力量を備えていることの二点が選考の柱。

放送批評懇談会正会員によって組織する選奨事業委員会が審査を担当。審査は、年2回（上期・下期）、エントリー作品を受け付けて行う。上期・下期で選出された作品を対象に年間の最終選考がおこなわれ、各賞を決定する。

表彰式は、毎年6月初旬に行われる。受賞者には、トロフィーと表彰状が授与される。



◆賞の内容◆

【テレビ部門】大賞 1、優秀賞 3、選奨 10、特別賞 1、個人賞 1、フロンティア賞 1

【ラジオ部門】大賞 1、優秀賞 3、選奨 4、個人賞またはDJパーソナリティ賞 1

【CM部門】大賞 1、優秀賞 3、選奨 9

【報道活動部門】大賞 1、優秀賞 2、選奨 3

【その他】志賀信夫賞 1、マイベストTV賞グランプリ 1

<志賀信夫賞>

放送批評懇談会の発展に寄与した放送評論家・志賀信夫の功績をたたえるために、2010年（第47回）創設。広く放送界の発展、放送文化の向上に貢献した人物等を表彰する。放送批評懇談会正会員の推薦を元に選出する。

<マイベストTV賞>

視聴者の参加により選ばれるテレビ番組賞で、2007年（第44回）創設。放送批評懇談会選奨事業委員会が候補番組を選定し、これを毎月、放送批評懇談会正会員と「Gメンバー」（視聴者によって構成される放送批評懇談会のオンライン会員）が投票して選出される。年間で最も得票を得たものが「マイベストTV賞グランプリ」としてギャラクシー賞と共に表彰される。

上記のほか、周年には記念賞を設ける場合がある。

◆沿革◆

1963年度（表彰は1964年）ギャラクシー賞誕生、第1回。

第27回、ラジオ部門独立。

第31回、ラジオ部門にDJパーソナリティ賞新設。

第33回、CM部門設立。

第40回、報道活動部門設立。

第44回、視聴者が選考に参加する「マイベストTV賞」を新設。

第47回、「志賀信夫賞」を新設。

第53回、テレビ部門がテレビの新しいチャレンジを応援する「フロンティア賞」を新設。